

5・7・5に乗せて



竹の子川柳会

よるごはんはここにこマークわらうばく
 お正月おぞうにたべてばっかばか
 コーラのむげつぶがでたらわらわらちやう
 げーむしてわらいごえでるたのしいな
 友だちとにらめっこしたわらったよ
 友だちと正月しりとり楽しいな
 お正月たこが風のり飛んでゆく
 新年をむかえ心をリセットだ
 芸人は客をわらわす名人だ
 正月でだらけた体ひきしめる
 お正月こたつでのんびりテレビ見る
 よく笑いよく食べる人ステキだな
 あといくつ数えて眠るお正月
 友達の笑いのツボがわからない

小一 優
 小一 隆 希
 小一 心 香
 小二 勇 斗
 小二 みるく
 小三 心 春
 小三 翔 太
 小四 清 也
 中二 海 士
 中二 海 斗
 中三 ななみ
 高二 瑠 依
 高二 ちひろ
 高三 沙 耶

ひよし川柳会

初孫に骨抜きされる恵比須顔
 初春の成人式の娘が眩し
 初釣で大物上げた夢を見た
 新米はやっぱ美味しい汗の粒
 新スマホわくわく不安二分する
 新婚の頃の伴侶はどこへやら
 錆びた脳活をくれてる新刊書
 原発もいろいろ課題まだ稼働
 さがし物日に日に増えて先不安
 十人十色いろいろ言うはいらんこと
 いろいろな人に助けてもらい今
 安穩に暮らせる田舎心地良い
 生き甲斐の子孫は元氣日々安堵
 母の荷へいろいろ中につるし柿
 新年も明ければ早いどんど焼き
 安心のカードに悪が忍び寄る
 新年の鮎祝儀値段は億という

山本 雅之
 山本 節
 川添 忠昭
 木村 貞子
 宇都宮 忍
 伊勢本 恵
 若宮 賢敬
 中城 英雄
 菅原 由紀
 大崎 五葉
 兵頭チヨカ
 水野すみこ
 熊本 忠真
 渡辺 光男
 兵頭 好子
 米子 達雄
 宮川 柳酔

鬼王丸のほのぼの日記

作・榊形 浩人
 絵・にのみや なつみ



鬼北の足跡をたどる



村境の大草履

今年度は、鬼北町の歴史や文化と深い関わりがある「おに」について学ぶ『鬼北・おに』の講座を全5回開催しました。今回は、伊方町町見郷土館の高嶋賢二氏に民俗学の立場からお話をいただいた、「村境の大草履」の内容を少しご紹介します。

皆さんは藁草履が吊るされたり、置かれていたりするのをどこかで見た覚えはありませんか。鬼北町内でも見つけることができるこの風習は、実は「大きな藁草履を作って、地区の境に置く」というもので、愛媛県南部や高知県中西部で見られます。外から入ってくると思われた災難や疫病に対して、「ここにはこんな大きな草履を履く人がいるぞ」と脅す「魔除け」と考えられています。これらは、「オオヒトさまの大草履」や「鬼の金剛草履」などと呼ばれることが多いようですが、鬼北町での呼び名はよく分かっていません。

「大きな藁草履を作って、地区の境に置く」という一見簡略そうなものですが、作る日時や行事の内容、草履の形、大きさ、塔婆(墓の脇などに立てる木製の長い板)の形や書かれる文字の内容、ワラスボの大きさや中身、中連縄の有無など、地域によって千差万別、実に多様性があるとのことでした。お住まいの地域の藁草履、ぜひ、見つけてみてください。



▲中野川と芝の境界にある藁草履